

## ゆめ畑8周年大感謝祭



JA筑紫農産物直売所ゆめ畑大野城店は4月28日～4月30日までの3日間、利用者の皆様に日頃の感謝を込めた「8周年大感謝祭」を開きました。

大感謝祭は、地元野菜や米の特価販売の他に、アスパラガス部会の直売や、女性部員による大野城市の郷土料理「ぼっかけ」の無料試食会など、様々な企画で来店者を楽しませ、店内は来店者で賑わいました。

ゆめ畑大野城店の鶴田孝仁店長は「生産者や利用者のおかげで8周年を迎えることが出来ました。これからも愛される店舗になれるように努力していきたいです」と笑顔で話しました。

## 「作業中です」 のぼり旗で注意喚起



筑紫野市阿志岐の農事組合法人あしきは、農作業をより安全に行うため、のぼり旗を掲げて周囲への注意を呼びかけています。同法人が管理する圃場は、住宅街や道路沿いが多く、通行量が多いため、法人の組合員はこれまでも周辺に注意を払い、声をかけながら作業を行ってきました。今後もさらに注意を呼びかけるため、初めてのぼり旗を制作。圃場で目立つデザインや色にこだわりました。

法人の組合員は、「作業をする人だけでなく、周囲にも注意を呼びかけ、安全に作業を行いたいです」と話しました。

## 旬のアスパラガス 美味しく食べて



JA筑紫アスパラガス部会は、農産物直売所ゆめ畑大野城店で販売促進イベントを行いました。この取り組みは、旬のアスパラガスをPRし、多くの消費者に味わってもらおうと、部会員らが集まって定期的に行っているものです。部会員が来店客に試食をふるまい、おすすめの調理方法などを説明。試食を味わった来店客が、アスパラガスを買う姿が多く見られました。

JA農業振興課の担当職員は「イベントは、部会員自身がアスパラガスの美味しさを直接PRでき、消費者は生産者の顔を見て農産物を購入できるため、双方から好評。今後も続けていきたいです」と話していました。

## 規格外ホウレンソウ使った食パン人気



ＪＡ筑紫農産物直売所の出荷者どうしが連携して、規格外品のホウレンソウを使った商品「ホウレンソウの食パン」を開発。ゆめ畑店舗で販売し、人気商品となっています！

年間約２０品種の野菜をゆめ畑に出荷する大野城市の農家・城戸一郎さんと、同市のパン屋「パンだ！屋」を営む佐々木美幸さんが連携。城戸さんが収穫しきれなかった規格外品のホウレンソウを、佐々木さんへ出荷。佐々木さんが食パンに加工してゆめ畑へ出荷しています。ホウレンソウの優しい風味と、ほんのり緑色に色づいた見た目が特徴です。

城戸さんは「規格外品のホウレンソウは直売所へ出荷は出来ないが、味は変わらない。加工すると、無駄なく味わってもらえます。出荷者どうしで連携出来て嬉しいです」と笑顔で話しました。

## 魅力的な直売所を



ＪＡ筑紫は４月２７日、ＪＡ本店で「平成２９年度ＪＡ筑紫ゆめ畑出荷者大会」を開催。ＪＡ直売所の出荷者や、来賓、ＪＡ役職員ら１２４人が参加しました。大会は、より魅力ある直売所づくりを目指し、出荷拡大の意識や技術向上に努めることを目的としています。

平成２８年度事業報告や２９年度計画、出荷者による基調講演の他、地域農業振興に大きく貢献した生産者などを対象とした表彰式が行われました。

### ★店舗ごとの今年の受賞者★

日下部隆則さん（那珂川店）

鬼木トミ子さん（太宰府店）

城戸一郎さん（大野城店）

井上秀一さん（筑紫野店）

城戸ヤス子さん（特別表彰）

## 児童に野菜苗を贈呈



JA筑紫二日市支店と二日市東出張所は、支店管内の4つの小学校に、野菜苗約680本と生産資材を贈りました。児童達に食と農の大切さを伝えることを目的として6年前から行っています。

25日は、筑紫野市立天拝小学校に、トマト苗やオクラ苗など計160本と肥料を贈呈。活動には、小学2年生と校区内の区長、JA職員らが参加しました。

昨年の12月には野菜苗のお礼に児童がJAへ、野菜を食べた感想や絵、写真がぎっしり貼られた「野菜パネル」が贈られた。食農体験を通じて、地域とJAとの交流が続いています。

## 高品質な麦作り 共励会で表彰



JA筑紫麦出荷者部会は、JA物流センターで、第7回JA筑紫麦出荷者部会通常総会を開きました。部会員と福岡普及指導センター、行政関係者、JA職員ら36人が参加。同日に平成28年度JA筑紫麦出荷者部会麦作共励会の表彰式も行われました。

表彰式で、裸麦の部（4畝以上・未満）と小麦の部（4畝以上・未満）で、各優秀賞・優良賞計8人を表彰。受賞者は、「29年産麦も、収穫まで生育管理を徹底し、高品質で安全・安心な麦づくりに取り組みたい」と抱負を語り、笑顔で表彰状を受け取りました。

## 生タケノコ約36トン集荷



JA筑紫は、3月27日から4月28日まで、JA本店で生タケノコの集荷を行い、集荷量は約36トンとなりました。集荷は中山間地の活性化や竹林整備を目的に取り組み、今年で8年目。タケノコは、近年「国産」の需要が高まっているため、研修会や座談会などで出荷を組合員に呼び掛けています。

集荷されたタケノコは、大・中・小・外・穂先の規格別に分けられ、加工会社に出荷されます。

JA筑紫農業振興課の職員は「今年は気温の低下により生育が遅れていたが、後半になって出荷量が増えました。組合員にたくさん出荷していただいたおかげで昨年以上の収量があった」と話していました。

## 直売所でJAカードPR



JA筑紫の金融渉外担当職員は、農産物直売所ゆめ畑筑紫野店で、JAカードのPR活動を行いました。活動は、JAバンクが4月から始めた、JA農産物直売所約650店舗で買い物客がJAカードを利用した場合、5%割引くサービスに合わせて行われたものです。

職員は、店舗入り口にカウンターを設け、利用客にカードや手続きを説明。質問などに応じました。渉外担当職員は「多くの人により直売所を利用してもらうきっかけになれば嬉しいです」と話していました。

## 野菜ソムリエ産地見学 イチゴ農園訪問



筑紫野市の観光農園・筑紫野いちご農園で4月20日、福岡県内の野菜ソムリエでつくる団体「野菜ソムリエコミュニティ福岡」の産地見学が行われました。県内の野菜ソムリエ資格取得者10人が、農園の代表を務める石橋徳昭さんの説明を受け、農園を見学、収穫体験を行いました。

同園の来場者数は、年間約2万人。アジア圏を中心に外国人旅行者も多く訪れる大人気農園です。石橋さんは、参加者に栽培や観光農園経営について説明。参加者は熱心に聞き入り、イチゴの品種や、農園を訪れる観光客の特徴などについて質問しました。「あまおう」や「かおり野」などの品種ごとの食べ比べでは、参加者どうして食べた感想や意見を交換。また、農園のイチゴを使う洋菓子店「シュクレフレーズ」を見学し、6次産業化の実例を学びました。

参加者は「産地を見学し、生産者と直接触れ合うイベントは毎回大人気。今回は石橋さんから貴重なお話を聞き、大変勉強になった。美味しいイチゴも味わえて満足。」と笑顔で話しました。

## グラウンドゴルフ熱戦！



JA筑紫那珂川地区の4支店は、那珂川町安徳公園のグラウンドで、第1回JA筑紫那珂川交歓グラウンド・ゴルフ大会を開きました。大会は、那珂川町グラウンド・ゴルフ協会の協力を得て今回初めて開催。参加者は、地域のグラウンドゴルフ愛好者200人。うち90歳以上の参加者は3人で、最高齢は100歳でした。熱戦を繰り広げ、柳生文生さんが優勝しました。

那珂川支店の藤野憲成支店長は、「初めての取組みだったが、多くの方の協力のおかげで大盛況に終わることができた。今後も続けていきたい。」と話しました。

## 交通安全運動で地域活性化へ



JA筑紫は、4月17日から28日まで、登校中の児童を見守る「春のJA筑紫交通安全運動」を全店舗で行っています。JAが取り組む「ふれあい活動」の一環です。

JAはこれまでも、青パト（青色回転灯車両）活動や、渉外担当職員のみまもり活動など、地域の防犯活動に積極的に取り組んできましたが、全店舗あげての一斉活動は今回が初めて。運動を通じ、JAが中期三ヵ年計画に掲げる「地域の活性化」へ貢献。地域に必要とされるJAを目指します。

19日は、JA筑紫のマスコットキャラクター「ちくしんぼー」と「ゆめっぴー」も、向佐野支店の活動に参加。支店前の交差点で、職員や地域ボランティアの皆さんと共に、通学中の児童を見守りました。

## 女性部 総会・リーダー研修会が開催されました



JA筑紫女性部は4月18日、JA本店で「第44回JA筑紫女性部通常総会」を開きました。部員とJA役職員ら235人が参加。平成28年度の活動報告や今年度の活動計画・予算など全5議案が承認されました。

また、同日に「女性部リーダー研修会」が開かれ、女性部のリーダーを務める208人が参加しました。

## 視察研修で農業技術向上目指す



JA筑紫アスパラガス部会は、農業技術の向上を目指す目的で視察研修会を行いました。大川市のアスパラガス農家を訪問。部会員とJA担当者の17人は、アスパラガスの立茎が始まっているハウスを見学し、熱心に質問しました。部会員は「主に管理作業や、肥料・農薬などについて知ることができた。部会の状況なども情報交換ができ、大変勉強になった」と話していました。

同部会は、16人で構成。共同選果体制で、機械に加え人の手で、アスパラガスの長さや重さ、穂先の向きなど、細やかに気を配り選別・結束作業を行っています。部会一丸となって、高品質なアスパラガスの出荷を目指します。

## 健全な苗を届けます



JA筑紫関連会社(株)JAアグリサポート筑紫は、4月4日から5月25日まで、平成29年度水稻種子温湯消毒を、JA筑紫本店横の育苗センターで行っています。4日は、約3840箱分の「夢つくし」種子に温湯消毒を行いました。

温湯消毒は、健全な苗を育てる為に、いもち病・ばか苗病・イネ苗立枯細菌病などの病気や、イネ心枯線虫などの害虫から種子を守る効果があります。今年度は、約5万6800箱分の種子を13回に分けて行う他、組合員からの申込み分を消毒する計画です。

種子を60℃の温湯に10分間浸漬し、直ちに冷水に漬け一気に冷やします。その後、芽が出るまで水槽に浸します。温湯消毒された種子は一定の育苗期間を経て、農家に届けられます。

## 今年も健苗を育成



JA筑紫と(株)JAアグリサポート筑紫は4月10日、本店の育苗センターで、2017年度水稻播種式を行いました。播種式は、健全な水稻苗の育苗と、作業の安全を祈るものです。品種は、「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」の3品種。今年度はおよそ5万6,800箱を播種し、出荷する予定です。

温湯消毒をし、催芽させた水稻の種子を播種します。播種した苗箱は発芽室で3日間、緑化室で3～5日間管理。25～30日間の育苗期間を経て、農家に届けます。

白水清博組合長は「安全を第一とした作業で、高品質の苗を組合員のもとへ届けてほしいです」と話しました。

## 元気いっぱい女みこし



筑紫野市の二日市八幡宮で4月8日、春季大祭が行われ、地域の女性が担ぐ「おんな神輿（みこし）」が奉納されました。おんな神輿は毎年恒例の行事で、今回で24回目を迎えました。この日参加したのは、地元企業や団体、高校などから集まった約120人の女性。今年初めてJA筑紫・筑紫野地区の女性職員9人も加わりました。鉢巻きに法被姿の参加者が4基の神輿を担ぎ、商店街や駅周辺などを、賑やかに掛け声をかけながら練り歩きました。沿道では地域住民が、元気いっぱいのおんな神輿を笑顔で見守りました。

参加した職員は「いつもの職場姿とは違う装いで参加し、地域の皆さんとのコミュニケーションに繋がりました。JAをより身近に感じて頂けたら嬉しいです」と話しました。

## 食と農の大切さ学ぶ 「ちゃぐりん」寄贈



JA筑紫は4月4日、春日市役所で、家の光協会発行の子供向け情報誌「ちゃぐりん」25冊を寄贈しました。JAは、教育文化活動の一環として家の光3誌の普及に取り組んでいます。特に小学生には、食と農の学習に役立つ「ちゃぐりん」を幅広く読んでもらおうと、教育委員会を通じて、毎月25冊を2年間寄贈しています。

「ちゃぐりん」を受け取った春日市の井上澄和市長は「春日市では、食育を通じた心と体づくりを推進しています。この本を通じて食と農の大切さをしっかり学んでほしいです」と笑顔で話しました。

## 初の研修会を開催



JA筑紫は4月5日、JA本店で「店舗運営委員研修会」を開きました。

JAは自己改革の一環で、平成28年に店舗運営委員会を設立しました。正・准組合員、女性部や青壮年部などの組織代表者らが委員をつとめ、店舗活動を検討。組合員・利用者の意思を反映した店舗運営を行い、さらに地域に必要とされるJAを目指しています。

研修会は、今回が初めての開催。委員ら102名が参加し、JA福岡中央会の職員が講師をつとめました。各店舗で行うふれあい活動の主旨や事例、委員会の必要性などを説明。参加者は真剣に聞き入りました。

参加した委員らは、「委員会の意義などを再確認できた。研修会で学んだことを参考に今後活かしたい」と話していました。

## 無人ヘリ安全第一に



麦刈りシーズンを前に、ＪＡ筑紫無人ヘリ防除作業部会による「イチバンボシ」「チクゴイズミ」の防除作業が始まりました。平成２９年度麦防除作業の面積は２９５畝。作業は、麦刈り前の５月上旬まで続きます。

部会は、部会員１０人で無人ヘリ２台による米・麦・大豆防除活動に取り組んでいます。適期防除をするために作業の効率を上げようと、オペレーター・ナビゲーター・作業員の３人１組で役割を分担。効率よく安全に作業を行います。ＪＡの担当職員は「基本を忠実に守り、安全第一で防除作業を行って欲しいです」と話しました。

## 新入職員決意新たに



ＪＡ筑紫は４月３日、筑紫野市のＪＡ本店で平成２９年度新入職員入組式を行いました。決意を新たに式に臨んだ１１人は、緊張した様子で辞令を受け取りました。

新入職員代表の八尋竜也さんは「早く仕事を覚え、必要とされる人材になれるよう努力します。」と、力強く決意を表明しました。白水清博組合長は「仕事をする上で困難なこともあるが、必ず乗り越えられる。頑張ってもらいたい」と新入職員を激励しました。